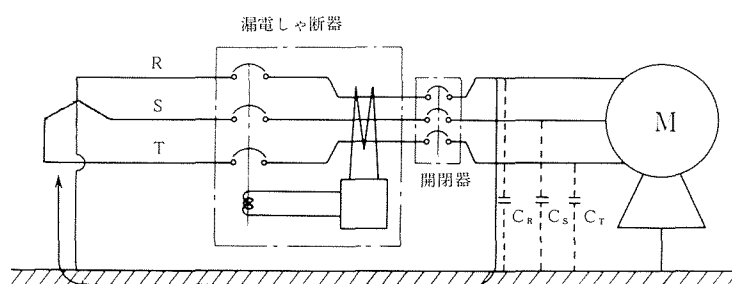


●不揃いしゃ断による誤動作

前項で述べましたように、電路や負荷機器は通常大地に対して静電容量(C)をもっています、このため中性線接地式電路では、負荷機器を制御するための開閉器接点の投入時や、しゃ断時の不揃いにより、対地静電容量を通して充電電流が流れ、漏電しゃ断器が誤動作することがあります。この原因は通常の場合、三相電圧は平衡していますので、各相の静電容量を通して流れる電流のベクトル和は零となり大地、充電電流は流れませんが、開閉器の不揃い投入あるいはしゃ断により、ごく短時間ではありますが、電路の一線だけが生きた状態となり、図に示しますように対地静電容量(C)を通して充電電流が流れるからです。

通常このような不揃い投入はあり得ず、何かの原因で開閉器が故障した場合に限られます。

このような場合には、開閉器の接触部をよく点検し、補修のできないものは新品との交換が必要です。



不揃い投入しゃ断器による誤動作